

2015年12月20日

スカンジナビア・ニッポン ササカワ財団様

スウェーデン王国において若者が積極的にまちづくりに参加する
先進的な地域及び関係機関の視察ツアーの実施 報告書

YEC（若者エンパワメント委員会）

1. 交流の目的

世界的に若者参画をリードするスウェーデン王国を訪れることで、国内の若者参画の発展を目指すための示唆を得る。特に「地方創生」が叫ばれる日本に、スウェーデン王国の地方における先進事例を視察・研究することで、YEC（若者エンパワメント委員会）の活動地でもある静岡や、その他の地方における若者支援及び若者参加の具体的な方法の示唆を得る。

2. 交流活動

(ア) 期間

- ① 2015年9月9日（火）～9月14日（水）

(イ) プロジェクト参加者リスト

- | | |
|--------------------|-----------|
| ① 土肥 潤也(どひ じゅんや) | 静岡県立大学 3年 |
| ② 秋山 千奈美(あきやま ちなみ) | 常葉大学 3年 |
| ③ 荒木 将英(あらき まさてる) | 静岡県立大学 2年 |
| ④ 鈴木 直久(すずき なおひさ) | 静岡県立大学 2年 |
| ⑤ 加藤 麻佑(かとう まゆ) | 静岡県立大学 1年 |
| ⑥ 魚取 あすか(うおとり あすか) | 静岡県立大学 1年 |
| ⑦ 大野 彩佳(おおの あやか) | 静岡県立大学 1年 |
| ⑧ 横葉 美菜(よこは みな) | 静岡県立大学 1年 |
| ⑨ 石黒 夢奈(いしぐろ ゆな) | 静岡県立大学 1年 |

(ウ) 対象

- ① スウェーデン王国において若者が積極的にまちづくりに参加する先進的な地域
② 若者参加に取り組む施設及び関係機関

(エ) 実施場所・訪問先

- ① ストックホルム市 (Stockholms län)
- 子どもオンブズマン (BARN OMBUDSMAN)
 - Friends program
 - LSU (全国青年協議会、英訳: National Council of Swedish Youth Organizations)
 - Birka Garden
 - Fryshuset
- ② ヨンショーピング市 (Jönköping)
- KFUM JÖNKÖPING

- 穏健党青年部ヨンショーピング支部

(オ) 交流の内容

対象団体及び機関を訪問し、ヒアリングを行った。また、2015年9月12日(土)にストックホルム中央駅を通る13~25歳の若者を対象に、若者の自己肯定感や社会的な意識に関するアンケート調査を行った。

(カ) 結論

スウェーデンはEU諸国の中でいち早く若者政策に取り組み、制度的な発展をしてきた。今回の視察全体を通し、社会全体で「若者の声を聞こうとする姿勢」と「若者の社会参画を促すことが、将来の自国の発展につながる」という考え方が理念として根付いていることを実感した。スウェーデン王国における先進的な若者参加には、理念的な発展の上に制度的な発展がある。

今回の視察で訪問した「穏健党青年部ヨンショーピング支部」では、私たちと同年代である20歳の政治家と出会うことができた。ヨンショーピング市にたまたま若い政治家が存在していたのではなく、スウェーデンのあらゆるところには若い政治家が多くいる。日本では、若者は未熟な存在で、「保護」の存在とみなされることが多いが、スウェーデンでは20代の政治家が多くいるように、若者を社会を共に育むパートナーとみなしている。

実際にヒアリングやアンケート調査をする中で、スウェーデン社会に暮らす若者たちの考え方は、日本の若者にはない「自分(若者)たちも社会を担っている存在」という自覚と誇りがあった。この考え方を国内に取り入れていくには、若者だけに対してアプローチしていくのではなく、上述したような社会全体での理念的な発展が必要である。今後の団体での活動では、若者だけに注目するのではなく、社会全体で若者観を問い直す訴えをしていかなければいけないことを再認識した。

3. 成果の発表

参加メンバーを中心にスウェーデン視察報告書を作成した。

2015年11月14日(土)に静岡県立大学でスウェーデン視察報告会を開催した。視察報告会には、学生、行政関係者、NPO関係者などを中心に40名ほどの参加者が集まった。会の中では、視察メンバーの報告に加え、今後の日本に視察で得た学びをどのように生かすことができるかをワークショップ形式で議論した。議論の中では、国内での若者参加に関する制度を充実させる前に、社会全体の若者に関する考え方を捉え直す必要があることを確認した。

【当日の様子】



4. 本プロジェクトの総括と今後の展望

視察を通して、日本とスウェーデンとの社会全体に流れる空気や考え方の違いを強く感じた。我々はこの視察で感じた違いを、若者のみならず、大人に対しても発信していく必要があることを実感している。

そして、スウェーデンで得た学びを、どのように日本に持ち帰るのかを、多くの人を巻き込みながら考えていきたい。社会の構成員の一人として、大人も若者も共に手を取り合いながらつくる社会こそが、最も持続的で未来ある社会だと確信し、私たちにできることから今後の活動の発展へとつなげていきたい。

5. 印刷物および資料等の添付

- スウェーデン視察報告書